

かざ

ぐるま

# 風車

紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌【かざぐるま】

2024 夏号

# 105

公益財団法人 和歌山県文化財センター

## 特集 前田遺跡の発掘調査



調査地と日高川、後山をのぞむ（東から）

# 特集 前田遺跡の発掘調査

## はじめに

今回の調査は、日高郡日高川町佐井地内において、和歌山県により県営中山間総合整備事業佐井地区ほ場整備工事が計画されたことによるものです。その予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である「前田遺跡」に該当することから、和歌山県より委託を受け、当文化財センターが和歌山県教育委員会の指導のもと、事業予定地のうち調査対象地867.74㎡において記録保存を目的とした本発掘調査を行うこととなりました。発掘調査は、令和6年1月4日から同年2月13日まで実施しました。発掘調査前の現況は水田と畑でした。

前田遺跡は、日高平野を西流する日高川の中流域において大きく蛇行する標高68mほどの左岸の河岸段丘上に位置する、縄文時代の土器や石器等が採取される散布地です。遺跡は東西150m、南北200mの範囲に広がっており、今回の調査地は遺跡の東辺部にあたります。

昭和47年に和歌山県教育委員会によって行



写真1 調査地と日高川、犬ヶ丈山を望む（西から）



図1 前田遺跡(16)と周辺遺跡地図(17:大芝遺跡 18:坂の川遺跡 26:後山城跡)  
出典:和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図(遺跡番号は和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図による)



われた分布調査で、昭和28年の日高川水害の際に、水田から石鏝や石匙などの石器、縄文時代後期から晩期の縄文土器が露出したと報告されています。これまで、発掘調査は行われておらず、詳細は不明でしたが、今回の調査で土石流もしくは水害の痕跡である砂礫層が複数、確認されました。

前田遺跡の周辺遺跡としては、日高川が犬ヶ丈山の山裾を大きく蛇行したところから分流する鷺の川右岸の山腹に、平安時代の松煙生産跡の可能性がある露佐古遺跡があります。

中世では、犬ヶ丈山の東側にあたる、日高川の支流沿いの山腹で松煙生産跡の可能性のある小谷A遺跡・小谷B遺跡があり、鎌倉時代ごろのものと考えられます。

詳しい時期は不明ですが、当遺跡の北西後背にあたる、後山の南西の小ピークに所在する中世の砦跡である後山城跡(26)で石垣等が確認されており、今回の調査成果と関連する可能性があります。

## 調査の成果

今回の調査地における土の堆積は、第1層現代の耕作土と第2層現代の床土、第3層砂礫層は過去の洪水層もしくは土石流の痕跡と

思われます。第3層砂礫層は、第4層地山の一部を削平しており、北壁・西壁などで確認されています(写真5)。

第4層地山(人間の生活痕跡が認められない土層のこと)上面で、鎌倉時代から室町時代ごろの溝2条(01溝・02溝)、複数の土坑・小穴を確認しました。調査区の北西部から西部にかけては洪水などにより大きく削られていました。東部はほぼ削られていませんが、中世以降の耕作に伴って、地山自体



写真2 調査地全景 遺構完掘状況(東上空から)

が整地により削平された可能性もあります。01溝 調査区西側に位置し、現在の水田の境界に沿って所在する南北方向の溝です。長さ約0.8m、幅0.2m、深さ21mで、この溝と平行して、後述の02溝の西に隣接して確認されました。

出土遺物は、土師器皿・土釜・黒色土器・瓦器椀・須恵質土器捏鉢・中国製青磁碗・国産陶器などの破片で、漁網の錘である管状土錘も出土しています。黒色土器は平安時代、瓦器椀・須恵質土器捏鉢は鎌倉時代から室町時代ごろ、国産陶器は室町時代ごろのもので



写真3 01・02溝完掘状況(南から)



写真4 出土した中国製青磁碗片（碗底部（高台））

（左）第4層地山面直上出土

（右）01溝内出土

す。中国製の青磁碗は、13～14世紀の鎔蓮弁文青磁碗の高台（底部）などの破片が複数出土しました。

**02溝** 北部（長さ5.5m）・中央部（長さ約11m）・南部（長さ8.5m）に分かれています。元々1条の溝の上部が削平されて底部のみがところどころ残ったものと思われます。幅1.0m、深さ約0.4mの南北方向の溝です。

出土遺物は、土師器・黒色土器・瓦器・須恵質土器などで、01溝と同様に13～14世紀ごろのものと思われます。

## まとめ

前田遺跡は、縄文時代の散布地として知られる遺跡でしたが、今回の調査では縄文時代の遺構や出土遺物は確認できませんでした。

そのかわり、今まで知られていなかった中世の遺構が確認されました。01溝・02溝は、河岸段丘上の傾斜に沿ってつくられた現代水田の境界に平行に位置しており、2条の溝が平行に流れていました。

これらの溝は、当時の水田の境界に伴う水路で水田の境界自体は現在とほぼ変わっていないと思われる。室町時代より古い水路だと考えられ、その後、用水路として使用されなくなり、埋没したようです。その埋没時期が、出土遺物から室町時代ごろと考えられます。溝の埋没時期より古い時期のものが出土しているのは、平安時代より古い時期から、当調査地周辺で人が生活していた時に使っていた土器が混入したものと考えられます。

出土遺物から、室町時代ごろの人々は日高川の河岸段丘上で農耕を行い、日高川で漁を

して、生活していたことがうかがえます。調査地点周辺で、古くは古代から周辺の河岸段丘に人々に移り住み、生活を始めたと考えら

写真5

（上）西壁土層断面

（下）北壁土層断面





写真6 遺構完掘状況（南から）

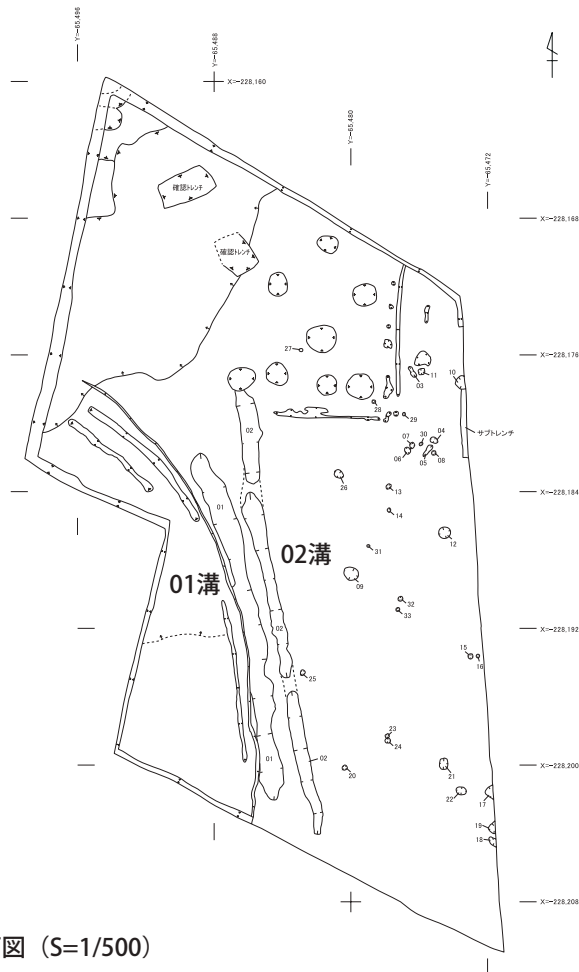


図2 遺構平面図 (S=1/500)

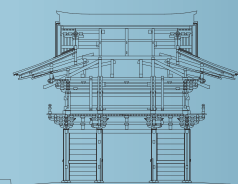
れます。また、中世の土器や中国製青磁片が出土することからも、当遺跡の北西後背にあたる、中世の城跡である後山城跡との関連がある可能性があると思われます。当時、貴重な輸入品である、中国製青磁製品の出土はあ

まり多くなく、社寺・城館跡などとの関係も考えられます。報告書刊行に向けて、今後の検討課題です。今年度、本調査地の近隣の、日高川上流域の大芝遺跡での発掘調査が開始されており、

佐井地区の歴史が新たに明らかになることでしょう。  
（田之上 裕子）

参考文献  
2006 「日高川町史」 松田文夫編





国宝

こんごうぶじふどうどう

## 金剛峯寺不動堂の保存修理

国内外からの観光客が多く訪れる高野山は、弘法大師空海が真言密教の道場として弘仁7年（816）に開創されました。金堂や大塔といった諸堂が建ち並び、高野山の中心地として有名な壇上伽藍に隣接して、今回ご紹介する不動堂が建っています。

『紀伊国名所図会』や古写真によって、不動堂は、かつて高野山内の一心院谷の寺院「一心院」の建物であったものを、明治41年（1908）に現在地に移築されたことが確



金剛峯寺不動堂 修理前全景



檜皮屋根の腐朽状況



檜皮屋根の解体状況

認できます。昭和27年（1952）に国宝に指定され、平成7年（1995）から平成11年（1999）にかけて解体修理が行われました。その時の木材の年輪年代調査などから、建立年代は鎌倉時代後期と推察されています。

不動堂は、バランスのとれた優美な檜皮屋根の姿が印象的な建物です。しかし、左右対称に見える正面（東面）においても、両隅で軒の出の寸法や屋根を支える垂木の勾配などの納まりが微妙に異なります。このことから、別々の大工が造ったため、四隅で軒がそれぞれ違う形になった、といった逸話も伝わります。

平成の解体修理から25年が経過し、屋根面

には経年による腐朽が進み、軒裏塗装の剥落や土間部分の劣化も確認されました。そのため、令和5年11月から2ヶ年度の国庫補助事業として修理を行うことになりました。事業は本年10月末までを予定しています。

本年2月に作業用足場と素屋根を建設し、3月から4月にかけて檜皮屋根の解体を行いました。高野山内の湿潤な環境下にあることと、南面の石垣下に池が広がり、軒先に杉の大木が近接していることから、湿気の多い状態が続いてきました。特に屋根面では、北面よりも西面や南面で苔が繁茂し、草木が芽吹いていたため、屋根下地の木部での腐朽も懸念されました。檜皮屋根を解体したところ、軒先では苔や草木のあった範囲にのみ腐朽が認められ、野地面に破損は生じていませんでした。これは、檜皮屋根と直接接する木部には水分への耐力が高い檜材が使われていたことと、前回の解体修理時に防火対策として野地面に石膏板が張り込まれたことで、草木が根を深く張ることを防ぎ、屋根からの水分が遮断されたと考えられます。今回の修理では、小屋組は健全であると判断し、軒先の腐朽部分を中心に部材の取替えや軒積の積替えを行うことにしました。

また、普段近くで見ることができない国宝の檜皮屋根を見学してもらえよう、檜皮の葺き直し中となる9月頃に、修理現場の公開を予定しております。

（野田 達志）

## 文化財建造物課 和歌山の建物とゆかりの人物(4)

東田中神社境内社旧竹房神社本殿(紀の川市)に、「木の葉に筆」をはじめ、魅力的な主題の彫刻がみられることを前号の特集で紹介しました。今回は、その中で個人的にイチ推しの彫刻を紹介したいと思います。それは「幼虫」の彫刻です。初めは、背景の葉と同色の盛り上がりは何だろうと不思議に思っていた程度でしたが、その正体について昭和20年に京都大学の天沼俊一博士が考察されています。前号の特集でも紹介した天沼博士は大阪城天守閣の再建や高野山の金堂、大塔の意匠設計も担当(共同)した有名な研究者です。著書では、太い縄を捻ったような盛り上がり、その先に剣らしいものが付いていることに着目し、剣に似ている部分は芋虫の尾角であることを見解を述べています。著書名やペンネーム(八戸成蟲楼)に虫の文字を加えるほど、昆虫にも造詣の深かった天沼博士ならではの観察力です。ちなみに、芋虫の種類についてはスズメガ科の老熟した幼虫と推察しています。

私も蛾の幼虫に似ていると思っていますが、建築彫刻に蛾を据えることがあるのか否かや、同じ部材の裏側の南瓜に似た彫刻との関係性については疑問が残っています。昭和20年頃には、幼虫の胴体に赤みを帯びた彩色が残っていたこともヒントになるかもしれません。引き続き、社殿の各彫刻主題の関係性を考察する中で、正体を明らかにできたらと思っています。

(大給 友樹)



葉に幼虫(身舎正面東側頭貫木鼻:見返し)

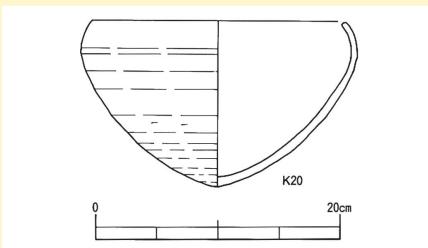
## 埋蔵文化財課 石鉢について

現存する日本最古の物語ともいわれる『竹取物語』は、平安時代前期ごろのものとされていますが、作者はわかっていません。物語では、竹の中から生まれた美しい「かぐや姫」に求婚するために贈物を探す公達たちのエピソードがあります。「仏の御石の鉢―石作の皇子」という話では、かぐや姫から「仏の御石の鉢」を要求された石作皇子は入手が困難なため、大和国十市郡の山寺にあってただの石鉢を持っていったところ、鉢が光らず、嘘がばれたというものです。

この「仏の御石の鉢」とはどのようなものだったのでしょうか。発掘調査では、鉄鉢という金属製の鉢を模した奈良時代の須恵器が出土しています(左図)。鉄鉢とは、供膳具や僧が托鉢で食物などを受けるのに用いるものです。また、令和5年度の日高川町・前田遺跡の発掘調査では、中世以降の製品と思われる、砂岩製石鉢の底部の高台部分が出土しました。

仏の御石の鉢とは、石作の皇子の偽「石鉢」とは、どのようなものだったのか、実際に出土したものから想像してみると面白いかもしれません。

(田之上 裕子)



1995年「藤並地区遺跡発掘調査報告書」より転載・改変



前田遺跡出土の石鉢底部

## 催し物案内

和歌山県内の文化財関係イベント情報（2024年夏～2024年秋）

### 和歌山県立紀伊風土記の丘

- 展示講座②（夏期企画展） 2024年9月1日（日）
- 特別展「数多の古墳を築く一群集墳からよむ古墳時代一」  
2024年10月5日（土）～2024年12月8日（日）
- 特別展シンポジウム 2024年11月17日（日）

### 和歌山県立博物館

- 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼一熊野と高野一」  
第Ⅱ期「神仏・祖師の住まう山一高野山上・山麓の宗教文化一」  
後期：2024年8月31日（土）～2024年9月29日（日）
- 第Ⅲ期「人・道・祈り一紀伊路大辺路をゆく一」  
2024年10月12日（土）～2024年11月24日（日）

### 和歌山市立博物館

- 企画展「陸奥宗光伯生誕180周年記念 陸奥宗光と和歌山一宗光を支えた紀州の賢人一」  
2024年7月6日（土）～2024年9月8日（日）
- 特別展「和歌の聖地・和歌の浦 誕生千三百年記念 聖武天皇と紀伊国」  
2024年10月12日（土）～2024年11月24日（日）

※掲載内容は変更される可能性があります。詳細は各施設へお問い合わせください。

#### 目次

- 1 表紙
- 2 特集「前田遺跡の発掘調査」
- 6 文化財建造物課 短信「国宝 金剛峯寺不動堂の保存修理」
- 7 きのかに歴史小話「文化財建造物課 和歌山の建物とゆかりの人物（4）」  
「埋蔵文化財課 石鉢について」
- 8 催し物案内

## 風車105（2024・夏号）

令和6年8月30日

（公財）和歌山県文化財センター

URL <http://www.wabunse.or.jp/>

（公財）和歌山県文化財センター

【事務局】 〒640-8301 和歌山市岩橋1263番地の1  
TEL 073-472-3710 FAX 073-474-2270  
kanri-2@wabunse.or.jp



LINE 公式アカウント

ID: @942tjyhk

